

海外自治体幹部交流協力セミナー2018（シドニー事務所管内） 事業概要

地方交流事業テーマ：少子高齢化に対応した住みたい・住みやすい町づくりについて

海外参加者数： 5名

Pauline Koritsa（ポーリン・コリツァ）
西トレンス市 ゼネラルマネージャー（ビジネス・コミュニティサービス部）
Candy Choo（キャンディー・チュウ）
西豪州地方自治体専門家協会 CEO
Stephanie Szalla（ステファニー・ザーラ）
ビクトリア州内閣総理府 代理マネージャー（東アジア地域）
Julie Gardyne（ジュリー・ガーダイン）
ワカタネ市 ゼネラルマネージャー（戦略・経済発展部）
Michelle Ivey（ミシェル・アイビー）
バンバリー市 シニアオフィサー（財務・予算）

日程：

月日	内容
2/12(火)	○来日、オリエンテーション
2/13(水)	【東京セミナー】 ○講義：日本の地方自治（明治大学 木村俊介教授）、 高輪ゲートウェイ駅の建設と開発概要について（JR 東日本） ○視察：品川駅（品川駅長との意見交換含む。）、 建設中の高輪ゲートウェイ駅（品川駅の屋上より） ○クレア主催歓迎レセプション
2/14(木)	【東京セミナー】 ○講義：東京都の少子高齢化の現状について（東京都政策企画局）、 福祉のまちづくり条例、ソフト面での福祉のまちづくりの取組について （東京都福祉保健局）、 ハード面での福祉のまちづくりの取組について（東京都都市整備局） ○視察：東京都庁展望室、土佐和紙の紙すき体験（小津和紙） ○講義：日本橋のまちづくりについて（三井不動産日本橋街づくり推進部） ○視察：日本橋における日本文化体験等（日本橋観光案内所）
2/15(金)	【江北町へ移動／江北町における地方交流事業】 ○江北町長表敬、江北町行政説明 ○生け花体験、着付け体験 ○江北町主催歓迎レセプション
2/16(土)	【江北町における地方交流事業】 ○視察：お寺での座禅体験等（龍澤寺）、女性ネットワークの会と町議会議員との 意見交換会（江北町役場）、（有）土井商会、（株）イワフチ、江北クリ ーンセンター（下水道終末処理場）、ごみステーション（車窓より） ○ホストファミリーとの対面式
2/17(日)	【ホームステイ】

2/18(月)	【江北町における地方交流事業】 ○視察：武雄神社 ○講義及び視察：さが西部クリーンセンター ○視察：有田焼絵付け体験（真右エ門窯）
2/19(火)	【江北町における地方交流事業】 ○視察：佐賀のへそ・ふれあい交流センター「ネイブル」、江北町幼児教育センター、こどもセンターうるる、江北町立江北中学校 ○江北町職員との帰国前意見交換会 ○クレア主催帰国前夕食会
2/20(水)	【東京都へ移動】
2/21(木)	○帰国

【2月12日（火）】

参加者来日

【2月13日（水）】

(1) 講義：日本の地方自治

クレア本部会議室にて、明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科 木村俊介教授による講義を実施した。

質疑応答では、首長と議会との関係（拒否権や不信任決議等）や税制度等の日本の自治制度に関するものをはじめ、選挙における投票率の傾向やワークライフバランスや出産後の女性の社会復帰に関し日本の行政はどの程度対策を講じているか等、さまざまな質問が相次いだ。



(地方自治講義後、木村教授を囲んで)

(2) 視察：品川駅（品川駅長との意見交換）、建設中の高輪ゲートウェイ駅（品川駅の屋上より）

講義：高輪ゲートウェイ駅の建設と開発概要について（JR 東日本）

品川駅を視察した後、竹澤 品川駅長と意見交換を行った。

少子高齢化に伴い、JR 東日本では駅の近くに幼稚園を経営していることや、今後見込まれる労働力の高齢化に対応するための取組など、参加者からのたくさんの質問に真摯にお答えいただいた。

また、品川駅の屋上から高輪ゲートウェイ駅の建設の様子を視察した。

その後、JR 東日本の黒田 観光戦略室長より高輪ゲートウェイ駅の建設と開発概要について講義を受けた。

広大な敷地面積における新しいまちづくりの話に、参加者は関心を持って講義を受けていた。

質疑応答では、「東京には今でも多くのビルやマンションが建ち並んでおり、さらなる建設に需要はあるのか」、「新しいタイプのモビリティが充実してくると公共交通に対するニーズが下がってくるのではないかなど、多くの質問がなされた。



(品川駅長との意見交換の様子)



(JR 東日本による講義の様子)

(3) クレア主催歓迎レセプション

グランドアーク半蔵門にて開催。参加者5名のほか、クレアから常務理事をはじめ5名が参加。

【2月14日(木)】

- (1) 講義：東京都の少子高齢化の現状について（東京都政策企画局）、
福祉のまちづくり条例、ソフト面での福祉のまちづくりの取組について（東京都福祉保健局）、ハード面での福祉のまちづくりの取組について（東京都都市整備局）

視察：東京都庁展望室、東京オリンピック・パラリンピックフラッグ展示コーナー

東京都庁にて、東京都政策企画局・福祉保健局・都市整備局の職員より東京都の少子高齢化の現状やソフト・ハードの両面からの福祉のまちづくりについて講義を受けた。

質疑応答では、福祉のまちづくり整備基準について、「申請書どおりに建築されているか、建築後に整備基準をクリアしているかはどのように確認しているか」等の多くの質問がなされるとともに、南オーストラリアの先進事例の紹介等もあった。参加者からは、都のインフラ整備や高齢者が住みやすいまちづくりへの取組についてもっと聞きたかったとの感想も出るほど、興味を持って受講されていた。

最後に、東京都政策局の小松主任にご案内いただき、地上45階の展望室に上り、東京都の全貌が見渡せるほどの素晴らしい景色を楽しみ、また東京オリンピック・パラリンピックフラッグ展示コーナーに立ち寄り、フラッグやマスコットキャラクターを視察した。



(講義の様子(上)と東京都庁展望室にて(下))



- (2) 視察：土佐和紙の紙すき体験（小津和紙）

承応2年（1653年）創業の日本橋の和紙の専門店、小津和紙にて土佐和紙の紙すき体験を行った。

体験に先立ちDVDにより和紙づくりについての知識を得た上で、一人ずつ和紙職人の手ほどきのもと紙すき体験を行った。

初めての体験にもかかわらず、参加者はためらったりすることなく楽しそうに次々と作業を進めていた。自分が作ったきれいな和紙が完成すると、参加者からは満足そうな表情がみられた。



(土佐和紙の紙すき体験の様子)

- (3) 講義：日本橋のまちづくりについて（三井不動産日本橋街づくり推進部）

視察：日本橋における日本文化体験等（日本橋観光案内所）

日本橋案内所にて、まず、三井不動産日本橋街づくり推進部の木村様より、日本橋におけるまちづくりとインバウンドの取組について講義を受けた。

日本の伝統的な風景を保ちつつモダンな商業施設を提供することや、見る観光から体験する観光への変化、国際コンシェルジュによる英語サポート等、さまざまな取組をされていることに参加者たちも関心を示していた。

その後、日本橋案内所のローズ様の案内により、熙代勝覧の説明にはじまり、福德神社の参拝や木屋での包丁研ぎの見学、にんべんにて鰹節削り等、日本文化を体験した。



(三井不動産による講義の様子)

【2月15日（金）】

(1) 江北町長表敬

江北町役場の庁舎前で「Welcome to Kohoku!!」の大きな横断幕とともに町長、議長はじめ多くの職員の皆様、温かい拍手で出迎えてくださった。

その後、町議会議員控え室にて町長表敬が行われた。町長だけでなく町の幹部の方々がそろった中での表敬で、町長、団長、議長の挨拶の後、記念品の交換、アテンド職員の紹介（参加者一人ひとりにセミナー期間中、担当職員をつけてくださった。）が行われた。



(江北町長、議長はじめ職員の皆様と)

(2) 江北町行政説明

江北町役場の各部署を視察して回った後、町長から江北町の概要及び今回のセミナーのテーマについてご説明いただいた。

東京セミナーで日本の地方都市の現状について学んでいた参加者たちは、少子高齢化の時代にありながら江北町が人口維持できている理由や町の戦略に興味津々だった。その他、若者の大都市流出や雇用創出といった参加者の自治体に共通する課題についてもたくさんの質問が飛び交った。



(江北町長の行政説明の様子)

(3) 生け花体験、着付け体験

江北町による歓迎夕食会に先駆け、着付けと生け花を体験した。

生け花では、初めてにもかかわらず、参加者たちが次々と自分のセンスで生けていく様子に、先生から筋がいいとお言葉をいただくほどで、参加者たちもとても楽しそうだった。

また、着付けでも「一度着てみたかったの!」「これを着ると日本人になったみたい」等と大喜びで写真を撮りあっていた。



(生け花・着付け後の記念撮影)

(4) 江北町主催歓迎レセプション

会場にはおよそ100名もの町民の皆様が集まり、江北町による歓迎夕食会が盛大に開催された。

夕食会に参加された町民の皆様は、老若男女さまざま、秋に学校交流でオーストラリアを訪れた中学生たちは上達した英語で積極的に参加者に話しかけ、また、小さな子どもが参加者にあやとりを教える場面もあった。全員が必ずしも英語ができるわけではなく、知っている単語と身振り手振り、時には翻訳アプリを使いながらの交流だったが、参加者たちには集まった江北町の皆様のおもてなしの気持ちは十分に伝わっており、「こんなにも歓迎されたのは人生で初めてで、感動で泣きそう」などという感想も聞かれた。

地元の方々による吟詠あり、舞踊ありの夕食会の最後は、全員で「上を向いて歩こう」を合唱。参加者たちからもオーストラリアの歌の披露があった。



(歓迎レセプションの様子)

【2月16日（土）】

(1) 視察：お寺での座禅体験等（龍澤寺）

朝から龍澤寺にて座禅体験等を行った。

座禅体験に先立ち、お参りの仕方を学び、住職と意見交換した後、永平寺での修行についてのDVDを鑑賞した。おそらく初めて目にする過酷な修行の様子に参加者たちは圧倒されている様子だった。

その後、座禅体験を行ったが、参加者からは「時間があったという間に過ぎた」、「肩を叩かれたのが痛かったがいい思い出になった」との感想が聞かれた。その後、お寺の精進料理を体験した。



(座禅体験の様子)

(2) 視察：女性ネットワークの会と町議会議員との意見交換会（江北町役場）

江北町役場に戻り、地元の女性ネットワークの会と町議会議員との意見交換会を冒頭のみ視察した。

今回、参加者が全員女性だったこともあり実現した視察だったが、女性ネットワークの会から多くの女性が集まるこの会合に、参加者から「江北町でこのように女性たちが議会へ要望する場があるということは大変よいと思う」といった感想が聞かれた。



(意見交換会の様子)

(3) 視察：(有)土井商会

ごみ処理等の環境事業について学ぶため、まず、江北町から委託を受け家庭ごみの収集運搬から分別までを行う(有)土井商会を視察した。

参加者は非常に環境意識が高く、「別のごみが混入している場合は回収するのか」、「ごみ袋は土に還るものか。燃やしたら有害ではないか」、「コンポストを使つての肥料化はしているのか」等の質問がなされた。



(ごみの収集運搬車について説明を受ける参加者)

(4) 視察：(株)イワフチ

次に、紙、プラスチック、ペットボトル、鉄、アルミ等、さまざまな再生可能な原料を集荷し再生処理を行っている(株)イワフチの視察を行った。

参加者たちの自治体でも、中国へのごみ輸出が全面禁止になったことを受け、埋め立てをいかに減らすかが課題となっていることもあり、終始熱心に視察し、たくさんの質問をしていたのが印象的だった。



(ごみの分別の機械を視察する参加者)

(5) 視察：江北クリーンセンター（下水道終末処理場）

最後に、処理区域約250ha、処理人口約5,530名分、日平均で約1,300m³の汚水を処理する江北クリーンセンター（下水道終末処理場）を視察した。

ここで処理され、きれいになった水は、最後に塩素消毒された後、河川や海に放流され、自然の水循環へと戻っていくとの説明に「藻が大量発生するようなことはないのか」等の質問がなされた。

また、日本で全国的に行われているマンホールカード配付の取組についても説明を受けた。



(下水道終末処理場にて)

(6) 視察：ごみステーション（車窓より）

時間の都合もあり車窓からとなったが、ごみステーションを視察した。

オーストラリアでは家の前にごみを捨てるのが一般的らしく、ごみステーションを設ける方法に感激したと最後の意見交換会で一人の参加者が述べられたほど、興味を持たれていた。

(7) ホストファミリーとの対面式

江北町役場にてホストファミリーとの対面式が行われ、すべてのホストファミリーが一堂に会し、ホームステイに関する様々な説明等が行われた。

地方セミナー初日に、多くのホストファミリーが歓迎夕食会に参加していたこともあり、この日は多くの参加者が既に打ち解けた様子で、安心した表情でホームステイへと出発していった。



(ホストファミリーとの対面式の様子)

【2月17日（日）】

ホームステイ

2月16日の夕方から17日にかけて、ホームステイを実施し、参加者たちは日本の一般的な生活を体験した。

戻ってきた参加者たちは、餅つきや地元の方々とのバーベキュー、お茶会、書道等、ホームステイ先でそれぞれが体験したことの思い出話で大盛り上がりで、たくさんの写真や子どもたちに描いてもらった自分の絵を嬉しそうに見せる等、充実した表情を見せていた。



(ホストファミリーの皆さんと)

【2月18日（月）】

(1) 視察：武雄神社

宿泊先の近くにある武雄神社に行ってみたいとの参加者からの強い要望で、朝から参拝した。

神社もさることながら、武雄神社には樹齢3000年の大楠もあり、その神聖な様子に参加者たちは感動している様子だった。



(武雄神社での参拝の様子)

(2) 講義及び視察：さが西部クリーンセンター

江北町を含む4市5町から成る佐賀県西部広域環境組合が運営するさが西部クリーンセンターを視察した。

巨大な施設でのごみ処理の様子を食い入るように見学されていたのが印象的であるとともに、広域連合による運営では自治体ほどの程度の財政的な負担があるか、広域連合の意思決定はどのように行われるか等、質問は財政面や広域連合の仕組みにも及んだ。



(巨大な施設でのごみ処理を視察する様子)

(3) 視察：有田焼絵付け体験（真右工門窯）

有田町にある真右工門窯にて有田焼の絵付けを体験した。

セミナー前のアンケートでも多くの参加者が有田焼に興味を持たれていたこともあり、全員非常に集中して、楽しみながら作品を仕上げている。また、どこで知ったのか、日本に古くから伝わる模様を描く参加者もあり、お店の方を驚かせていた。

絵付け体験の後、お店の方がろくろを回す様子を見学し、佐賀に古くから伝わる文化を体感した。



(有田焼の絵付け体験の様子)

【2月19日（火）】

(1) 視察：佐賀のへそ・ふれあい交流センター「ネイブル」

地域住民の方々の憩いの場である、佐賀のへそ・ふれあい交流センター「ネイブル」を視察した。

「ネイブル」は、多目的ホール、コミュニティセンター、保健センターの3つの施設から構成されており、スポーツや文化活動、健康づくり、各種イベントなど様々な用途に利用されているとの説明を受け、実際に箏教室、料理教室、図書館を視察し、体育館においてスポーツ吹き矢を体験した。



(スポーツ吹き矢を体験する様子)

(2) 視察：江北町幼児教育センター

幼稚園と保育園の機能を持つ施設である、江北町幼児教育センターを視察した。視察を行う中で、園児から歌と折り紙のプレゼントがあり、参加者たちもお礼にオーストラリアの鳥の歌を歌うなど、ほほえましい交流の一幕があった。

その後、職員から幼児教育センターでの教育について説明があり、質疑応答では「体験的な活動が多いのは、日本の幼児教育では一般的か」、「この町の規模で200人も児童がいることは驚き」との発言があった。



(園児との交流の様子)

(3) 視察：こどもセンターうるる

江北町の町民を対象とした自由来館型の施設であるこどもセンターうるるを視察した。

月曜から土曜日まで開館しており、未就園児は親同伴の必要があるが、6年生までの学童も児童館として利用できる等の施設の説明を受けた。

指定管理者による運営がなされており、児童厚生員を雇ったり、民間のノウハウを生かした運営がなされている点に参加者たちは関心をもって質問をしていた。



(こどもセンターうるるにて)

(4) 視察：江北町立江北中学校

江北町に1校ある中学校、江北中学校において、教頭先生、ALTのアンドリュー先生から中学校の概要等の説明を伺った後、実際に中学校の授業を視察した。

江北町では、昨年秋に江北中学校とオーストラリアのエンカウンター・ルーサランカレッジとの間で学校交流を始めたこともあり、直接交流する時間はとれなかったが、生徒たちも好奇心を持っている様子で温かく参加者を迎えてくれた。



(中学校の授業を視察する様子)

(5) 江北町職員との帰国前意見交換会

町長、議長はじめ町の幹部職員のご出席のもと、江北町議会の議場にて帰国前意見交換会が行われた。

最初に町長より挨拶があった後、参加者たちからそれぞれ今回の地方交流事業を通しての感想や町を視察した上での示唆、質問等が述べられた。参加者たちは事前に発表する内容を分野ごとに分けて重複しないよう工夫しており、環境、行政全般、交通・インフラ、財政、教育等、さまざまな角度からの発表となった。江北町側も幹部職員が全員出席されていたため、参加者の質問にすべて真摯にお答えいただくことができた。

参加者からは意見交換会后に「江北町の職員等の正直さに感謝している」との感想が寄せられたほか、予定していた3時間があっという間に過ぎたことから「もう少し時間が欲しかった」、「もっと自由に意見“交換”したかった」といった声もあったが、すべての参加者が満足しており、有意義な意見交換となったといえる。



(議場での意見交換会の様子(上)と
意見交換会後の記念撮影(下))



(6) クレア主催帰国前夕食会

参加者5名のほか、江北町から町長、議長はじめ職員の皆様、クレアからも交流支援部長ほか職員が参加し、開催した。江北町での最後の夜とあって、意見交換等、会は大いに盛り上がった。

【2月20日(水)】

東京へ移動

朝早くにも関わらず出発前のホテルまで見送りに来てくださった町長、空港まで来てくださった副町長はじめ町の方々の温かさに再度触れ、名残惜しさを感じながら東京へと移動した。



(見送りに来てくださった町長と)

【2月21日(木)】

参加者帰国